

相続ということを思う

謹んで新春のお慶びを申し上げます。今年は親鸞聖人750回御遠忌法要が3月19日より10日間ずつ、4月5月の3期に亘り勤まります。750年前に宗祖が顕された佛の教えが、今現在に届いている。これまでどれだけの人が教えをいただき相続されてきたのでしょうか。「法義相続」と願われ、お念仏の中で生きてこられた幾多の人々を思わずにはおれません。御遠忌テーマの「今、いのちがあなたを生きている」に込められた「いのち」の繋がりを思うと同時に、先達の歩みを受け止めさせていただきます。

私は、このたびの異動で、就学前のほんとに小さな子供たちとのご縁をいただきました。つまりは保育園の園長という肩書きをいただいたわけですが、このことは同時に、あらためて自分も父親であるということを考えさせられてもいますが、残念ながら自分の子には、躰ということをして、様々に親の作り出した理想のものを押し付けてきたように思います。園の行事に参加する中で、「子供が生まれてはじめて親になる」と教えられるように、「園児達がいて園長に」と、彼ら・彼女らから様々に教え学ばせてもらい、仏様に向かって手を合わす子供たちの眼差しを見ながら、園長という人に成らせていただいているところです。

本山では御遠忌を迎えるにあたり、御遠忌ソングを募集しました。選ばれた中に「なんまんだぶつの子守歌」という歌があり、本堂参拝の折には子供たちが大きな声で合唱してくれます。琵琶湖北部の坊守さんが、「親鸞さんと一緒やで・・・」と語ってくれた祖父や、幼い自分を泊りがけで七百回御遠忌に連れて行ってくれた祖母を想い、また数え切れない人達からいただいたお念仏の心をありがたいと思っている、そういう思いを有縁の人々に伝え、共に喜んでいきたいとの思いで作詞されたそうです。家族の在り方も昔とはだいぶ違いますが、こんなお念仏の心が、おじいちゃん・おばあちゃんから子供達に伝わればと念じます。

私たちは、人と人の繋がりの中で、いろいろな方の支えを受けながら生かさせていただいている。また、正信偈の中に「大悲無倦」とありますが、仏様はけっしてあきらめることなく自分を照らしていてくれるということ、生きていく上で様々な壁や出来事に出会うわけですが、常に仏様が見捨てず照らしてくださっている。そんなことを子供たちと共に感じていけたらと思います。